

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月12日(金)

### 《結婚生活への召命》

広い意味で召命と言えば、実際に結婚なさっている皆様も召し出しを持っていらっしゃるのです。何の召し出しでしょうか。それは結婚生活への召し出しです。これからの話は結婚式を受ける時の話で、すでに結婚なさっている皆様の助けになるとは言えないかも知れません。

結婚する前の二人が私のところへ結婚の相談にみえます。その時に必ず話す話があります。まず私が質問するのは普通に「何故結婚したいの?」と尋ねます。そうすると当然ながら「愛していますから。相手のことが好きだから。」と言う答えが簡単に返ってきます。次に結婚してから二人で築いて行く計画について話してほしいと言います。そうすると「先ず自分の家を建てるまでお互いに一生懸命に働き、もし子供が出来たらその時はその時で考えます。」と色々な計画を顔を見合わせ笑顔で話してくれます。しかし、殆どの人達が一番大事な計画については話さないのです。その話さない話とは、「どのような価値をもって、どのような方向に二人で生きて行きたいのです」という話です。

今、自分たちが持っている人間的な計画、車やテレビを買い、何か他のものも買い揃える、そういう計画ではなくて、「何もなくても少なくともこのような精神で、このような価値観で私たちは一緒に同じ方向に生きて行きたいと考えています。」と話してくれるカップルは、今まで殆ど見たことがありません。

よく考えてみてください。何事があっても、また何事がなくても、本当にお互いが足りない者であっても、同じ価値感を持って同じことに喜び、同じことに悲しみ、そういうことが出来れば、その人達は幸せではないでしょうか。たとえ空腹を抱えていても話し合える何かがあるのではないのでしょうか。

皆様、皆様も結婚への召命です。皆様は、結婚生活も終わり近くなって来たから気にしませんと言うかも知れませんね。(笑) しかし、結婚なさっている皆様には、一番大きな召命であり宿題ではないでしょうか。「もうこの年齢ではやり直すのは無理でしょう」と思われると思います。私もそのように思っています。(笑) しかしこの世の中で、一緒に同伴者として最後まで行く相手は、皆様が一番愛しているその相手であることを意識する必要があると思います。たとえ、他の皆が自分の相手に敵となっても、自分はその相手の見方になろうとする、そういう義理でも見せて下さい。お願いしますよ。(笑)

さあ、もう一つお願いしたいことは、私が一番気になっている司牧の対象は頼るところのないお年寄りです。心の頼りのことではありません。ある意味で司祭や指導者は色々なことによって守られています。私が言いたいのは、現実的に色々な面で頼ることの出来ない姿を見せている、信者の一人暮らしのお年寄りが結構みえるので気になっているのです。

いずれ私たちも、時と共にそのようになっていくと思います。その方々に、もっと温かい目を配って差し上げたい気持ちです。本当に性格に合わなくても自分はあまり口を出すタイプではなくても、自分なりの表現があります。無口の方は笑顔で温かい心を見せてくれます。その人が言葉をよく口にするタイプか、そうではないかは関係ないことです。そういうことは感じられます。温かな視線、簡単なゼスチャー、そういうことを気にかけて頂きたいのです。荷物をちょっと持ってさしあげたり、ちょっとした用事を代わりなさったり「私が一緒に行きましょうか。」と一声掛けることだけでも、十分にそのような立場にいる人々は力を頂けることを意識して下さい。いずれ私たちも、そのような時が必ず来ますので、そういうことに本当に温かい心を見せようと頑張りましょう。

ありがとうございました。